

2008.11.15

# “組曲”の魅力を探る 第2回

## プログラム

今日は先週に引き続き、“組曲”特集の第2回目です。このジャンルで他の追隨を許さなかったバッハの無伴奏チェロ組曲は古典的な組曲の形式で書かれた傑作です。ムソルグスキーの“展覧会の絵”とドビュッシーの“小組曲”のオリジナルはピアノ曲。今回は“小組曲”は管弦楽編曲版で、“展覧会の絵”はピアノ版とラヴェルの管弦楽編曲版を聴き比べながらお聴きいただきます。“コッペリア”と“火の鳥”は“コッペリア”がクラシック・バレエ音楽の古典的な名作なのに対し、“火の鳥”はストラヴィンスキーの出世作となった現代バレエの名作です。ドーデの戯曲のために書かれたピゼーの名曲“アルルの女”は先頃亡くなったジャン・フルネの追悼という意味を込めてお聴きください。

\*\*\*\*\*

**レオ・ドリーフ (1836~1891) :**

**バレエ組曲“コッペリア”から** 1. 前奏曲とマズルカ 2. 情景とスワニルダの円舞曲  
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 (1961年グラモフォン盤)

**ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685~1750) :**

**無伴奏チェロ組曲第2番ニ短調BWV1008**

(フレリユード~アルマンド~クーラント~サラバンド~ジーク {メヌエットを省略})

ミッシャ・マイスキー (チェロ) (1991.6.5 東京文化会館小ホールLive)

**ジョルジュ・ビゼー (1838~1875) :**

**“アルルの女”第2組曲**

1. バストラール 2. 間奏曲 3. メヌエット 4. ファランドール

ジャン・フルネ指揮日本フィルハーモニー交響楽団

(1999.5.23 サントリーホールLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**モテスト・ムソルグスキー (1839~1881) :**

**組曲“展覧会の絵”から**

(ラヴェル編曲版) フロムナード ~ 小人

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(ピアノ版) フロムナード ~ 古城 ~ カタコンブ ~ ババ・ヤガーの小屋 ~ キエフの大門  
ニキタ・マガロフ (ピアノ)

(1991.4.14 東京芸術劇場Live)

(ラヴェル編曲版) ババ・ヤガーの小屋 ~ キエフの大門

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1986.2.23 ベルリン、フィルハーモニーホールLive)

**クロード・ドビュッシー (1862~1918) :**

**小組曲 (アンリ・ビュッセル編曲) から** 1. 小舟にて 2. 行列

マルチェロ・ヴィオッティ指揮ケルン放送交響楽団

(1992.5.15 カイザー・フリードリッヒ・ホールLive)

**イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882~1971) :**

**バレエ組曲“火の鳥” (1919年版) から**

王女たちのロンド ~ 魔王カスチエイの兇悪な踊り ~ 子守歌 ~ 終曲

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1991.9.14 ベルリン、シャウシュピールハウスLive)